

## ハッチョウトンボの長崎市における新産地

大槻 恒 介<sup>1)</sup>

## New locality of the tiny dragonfly in Nagasaki City, Japan

Kosuke OTSUKI<sup>1)</sup>

## はじめに

ハッチョウトンボ *Nannophya pygmaea* は、全長17-21mmと日本最小のトンボで(尾園ら 2021)、低茎草本が繁茂する湿地や休耕田、耕作放棄水田に生息する(養父・中島 1997; 上田ら 2004; 尾園ら 2021)。本種は本州・四国・九州に分布するが(日本昆虫目録編集委員会 2017)、局所的である(尾園ら 2021)。長崎県内では、西彼杵半島中部に6ヶ所(桃下 1985; 江島・池崎 1989; 池崎 1998)、諫早市久山町(江島・池崎 1989)、諫早市貝津町旧長崎県総合農林センター(池崎 1998)の合計8ヶ所で生息が知られていた。しかし、西彼杵半島中部の3ヶ所および諫早市久山町の生息地は湿地の埋め立てにより消滅した(江島・池崎 1989)。さらに、旧長崎県総合農林センターの生息地も溜池の造成により著しく数を減らし(池崎 1998)、その後は確認されていない(深川元太郎 私信)。1985年に、ながさき県民の森付近で新たな生息地が見つかった(中村 1993)ものの、1996年頃の公園改修で消滅した(池崎 1998)。こうした人為的な影響による生息地の減少を受けて、長崎県版レッドデータブックでは、本種を絶滅危惧 IA 類に指定している(長崎県県民生活環境部自然保護課 2001)。その後、旧西彼杵郡西海町白岳地区、旧西彼杵郡琴海町飯盛山付近(中原ら 1999)、長崎市松崎町櫛の久保(池崎 2000)、佐世保市高島町(佐世保市環境部環境保全課 2002)で新たに生息地が報告されたが、これらのうち、飯盛山付近と櫛の久保の生息地では、近年、生息が確認されていない(田中 2017; 深川 2017, 2018)。また、長崎市からは絶滅した可能性が高い(深川 2018)。つまり、現在、本種は西彼杵半島(西海市内)、佐世保市高島町のみで確実な生息が確認されている。

今回筆者は、本種の絶滅が心配されていた長崎市において、本種の新たな生息地を発見したため報告する。

## 観察記録

ハッチョウトンボ9個体(雄4雌5)を、長崎市琴海戸根原町の耕作放棄水田(図1)で確認した。本種は雌雄とも翅の基部に橙色斑を広く有する(図2, 3)。この特徴に類似する種はネキトンボ *Sympetrum speciosum*、シヨウジョウトンボ *Crocothemis servilia*、ベニトンボ *Trithemis aurora* である。しかし、いず

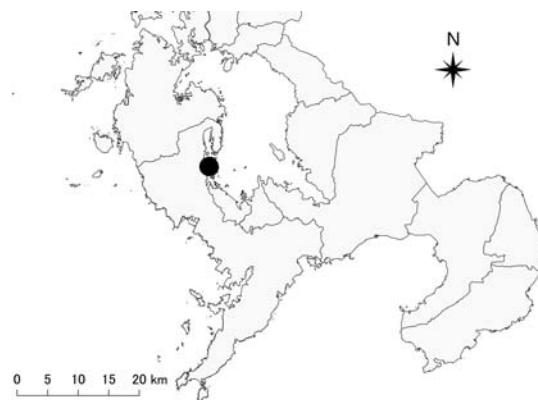


図1. ハッチョウトンボの新産地。●は新産地を示す。また、採集圧が個体群の衰退に直接結びつくことが懸念されるため、保全の観点から本報告では詳細な位置の公表を控える。



図2. ハッチョウトンボ 雄。

<sup>1)</sup> 〒852-8521 長崎県長崎市文教町1-14 長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科



図3. ハッチョウトンボ 雌.



図4. 耕作放棄水田の生息環境.

れの種も全長が30mm以上(尾園ら 2021)と大きいため、本種と間違えることはない。加えて、雌の腹部には特徴的な黄色と褐色の縞模様があり(図3)、日本産のどのトンボ科の種とも異なるため、本種と査定した。

2021年6月4日、当該地の耕作放棄水田にて膝下ほどの草から本種が飛び出したのを初めて認めた。その後、同年6月6日に改めて同所を訪れ、一眼レフカメラを用いて本種を撮影・記録した(図2, 3)。

観察個体は、草丈約1mのイネ科草本が優占する耕作放棄水田の中でも、部分的にイボクサ *Murdannia keisak* などの草丈20cm程の植物が生育する場所(図4)を利用していった。近くの農家の話によれば、この耕作放棄水田は8年ほど前に放棄されたとのことだった。水深は5cm程で、滲出水や雨水により湿地環境が維持されている。

## 考 察

本生息地が見つかるまで、長崎市では既知の生息地全てで近年生息を確認できておらず(田中 2017; 深川 2017, 2018)、絶滅が心配されていた。このような状況において、長崎市内で新たな生息地が見つかった

ことは保全上有意義である。

しかし、この生息地で本種がこれからも生息し続けられるとは限らない。ハッチョウトンボは、水深の浅い小さな開放水面が点在する低茎草本群落を選好する(養父・中島 1997; 上田ら 2004)。本生息地の環境は、水深が浅く、背丈の低い植生が存在しており、現在は比較的好適な環境だと思われる。一方、草丈の高い草本の進出が認められ、植生の遷移が進行している可能性が高い。植生遷移の進行によって草丈が高くなると、本種は姿を消してしまう(下田 2003)。そのため、近い将来、本生息地でも容易に絶滅してしまう危険性があることを否めない。今後、継続的なモニタリングおよび一刻も早い保全策の展開が求められる。

## 謝 辞

本稿の執筆を勧めて下さり、生息状況や文献をご教示頂いた深川元太郎氏、本稿の校閲をして頂いた長崎大学 山口典之教授に深く感謝申し上げます。

## 文 献

- 江島正郎・池崎善博 1989. 長崎県のトンボ相. 長崎県生物学会「長崎県の生物」編集委員会. pp. 211-214. 長崎県生物学会, 長崎.
- 深川元太郎 2017. 平成28年度 長崎市自然環境調査報告書: 水生生物. (オンライン) [https://www.city.nagasaki.lg.jp/shimin/170000/175000/p028131\\_d/fil/H28\\_suiseseibutsu.pdf](https://www.city.nagasaki.lg.jp/shimin/170000/175000/p028131_d/fil/H28_suiseseibutsu.pdf), 参照2021-08-16.
- 深川元太郎 2018. 平成29年度 長崎市自然環境調査報告書: 水生生物. (オンライン) [https://www.city.nagasaki.lg.jp/shimin/170000/175000/p028131\\_d/fil/H29\\_suiseseibutsu.pdf](https://www.city.nagasaki.lg.jp/shimin/170000/175000/p028131_d/fil/H29_suiseseibutsu.pdf), 参照2021-08-16.
- 池崎善博 1998. 長崎県内のトンボ分布 (3). こがねむし (60): 11-13.
- 池崎善博 2000. 長崎県内のトンボ分布 (5). こがねむし (63): 58-61.
- 桃下 大 1985. ハッチョウトンボ西彼杵半島に生息す. こがねむし (45): 37.
- 長崎県県民生活環境部自然保護課 2001. ながさきの希少な野生動植物-レッドデータブック2001-. 長崎県県民生活環境部自然保護課, 長崎.
- 中原康彦・下條清隆・松尾照男 1999. 長崎県内におけるトンボ類の記録. こがねむし (61): 65-74.
- 中村和正 1993. ハッチョウトンボの新産地. こがねむし (54): 55.
- 日本昆虫目録編集委員会 2017. 日本昆虫目録第2

卷 旧翅類. 權歌書房, 福岡.  
尾園 暁・川島逸郎・二橋 亮 2021. ネイチャーガイド 日本のトンボ 改訂版. 文一総合出版, 東京.  
佐世保市環境部環境保全課 2002. 佐世保市レッドデータブック2002年. 佐世保市環境部環境保全課, 佐世保.  
下田路子 2003. 水田の生物をよみがえらせる. 岩波書店, 東京.  
田中 清 2017. 平成28年度 長崎市自然環境調査報

告書: 昆虫類. (オンライン) [https://www.city.nagasaki.lg.jp/shimin/170000/175000/p\\_028131\\_d/fil/H28konchu.pdf](https://www.city.nagasaki.lg.jp/shimin/170000/175000/p_028131_d/fil/H28konchu.pdf), 参照 2021-08-16.  
上田哲行・木下栄一郎・石原一彦 2004. 丘陵湿地に生息するハッチョウトンボの場所利用と生息場所の保全について. 保全生態学研究 9 : 25-36.  
養父志乃夫・中島敦司 1997. ハッチョウトンボ生息地の保全に関する生態学的研究. ランドスケープ研究 60(4) : 324-328.